



2016年12月30日

特定非営利活動法人 風の家
〒730-0843 広島市中区舟入本町 17-8
082-232-6696
buratto-hiroshima@wine.ocn.ne.jp
<http://kazenoie.jp/>



一旦風の家で受け入れて自立した後、再犯してしまった者が再入所してくるケースが何件かあります。同様に、再犯し現在受刑中で釈放後再入所の希望を言ってくる者もいます。風の家を通過したからには再犯は起こさせないと意気込みますが、なかなか現実にはそうはなりません。風の家で何らかの支援を行った者が「再犯した」との報を受けるたびに、支援の内容の不十分さを思い知らされます。

「本人がちゃんとしなかったからしょうがなかった」はもう

止めにして、そろそろ再犯があった個々のケースを検証してそれを処遇に活かしていくべき時期にさしかかってきたように思います。風の家も活動を始めてからもう6年が経過しました。「要請があったのでとにかく受け入れてとりあえず退所までこぎ着ける」式の安易な活動に陥りがちになっている現状を打破し、もっと専門的集団へ向けての一步を踏み出さないと、風の家が存在理由が問われそうです。

そんなことを思います。

(理事長 嘉戸篤)

近況報告

昨年度年賀基金によって改修を行った作業所は、毎日10名ほどの利用者とともに、紙折りや季節の品物を生み出しています。その作業所の利用者、および風の家の中居宿所利用者などを対象として、SST(社会的スキルトレーニング)が始まりました。月に1回、毎回6名程度の参加者を迎え、講師の先生とともに人との付き合い方の練習を重ねています。始めは恥ずかしがっていたメンバーも、回が進むにつれて積極的に参加し、それぞれ味のある応答を見せてくれます。人間関係をうまく持て、落ち着いた生活につながることを期待しています。

今年はまだ、丸紅基金の補助を受けて新しくエアコンの改修を行うことができました。より良い施設運営に活かしたいと思います。9月には風の家で行っている活動を学会や学術誌で発表し、特に再犯の可能性の高い人のスクリーニングについては関心を集めました。支援をすることとともに、研究を通して、犯罪のない社会の構築に貢献したいと思います。



多くの先進国で犯罪が減少しつつあります。日本では高齢者の犯罪が増えている、とも言われていますが、時代的に見てみれば、戦後の混乱を生き延びてきた世代において、犯罪発生率が高いことが分かります。犯罪は個人の病理として現れますが、同時に育ちの家庭で身に付いた社会の病理でもあるのです。平和な時代が続き、犯罪が減ってきたのでしょう。

刑務所収容者数も減っています。日本ではこれまでの集団独居から、だんだんと夜間だけ一人で過ごせる、夜間独居の数を増やしていますが、それも収容者数が減っているから可能なのです。

オランダでは、そうした先進国のペースを上回るスピードで収容者数が減っているとイギリスのBBC ニュースが伝えていました。刑務所の中では一人一人プログラムを作り（訓練として調理をする場合には包丁を持ち歩く事も可能なのだそうです）、そのかわりにできるだけ収容者を減らし、社会の中で処遇しようとしているようです。時代とともに処遇の形も変わっています。

ボラン
ティア
から



主に宿直として勤務しながら、施設利用者はどのような心理的問題を抱え、どのような支援が必要で、そして立ち直りを効果的に促進する要素はなにか、ということについていつも考えています。そのことをテーマに研究に取り組んでいますが、日常生活にコミットした研究はとても難しくなかなか進みません。地道に理解の裾野を広げることが支援者と利用者の役に立つことを願いつつ、今日も頭を悩ませています。 (H)

15年前、私は30年続けてきた仕事を辞めて、両親の介護に専念することにしました。その両親を見送った後、生活は大きく変わりました。24時間全部、自分のものになったのです。仕事を再開したいと思いましたが、その私の前に年齢の壁は大きく、思うような仕事はありません。

そんな時、ネットで「風の家」に出会ったのです。

ここで働いてみたいと思いました。

早速面接、そしてすぐに採用。仕事は風の家での調理担当。料理は好きだけど得意ではありません。不安はありました。でも、もう1年半が過ぎました。今ではすっかり慣れて、また、手伝ってくれる利用者もいたりして、余裕が持てるまでになりました。

「食事」というのは、人間が生活していく上で寝ることともに最も大切な事と云われています。私は、衛生面や栄養のバランス、そして視覚的な面にも気を使っているつもりですが、予算というものがあるので、そこはかなり大変です。

おばちゃん、お姉さん、お母さん、呼ばれ方は様々です。和気あいあい楽しくやれています。一番嬉しいのは「美味しかった」と言ってもらえる事。

これからも頑張ろうと思います。 (T)

職員より

学生の時にアルバイトでの宿直勤務として始まり、現在は職員として働いています。アルバイトの時と比べ多くの利用者、関連する施設の方と関わらせていただけるようになりました。施設内で過ごしていると利用者から雑談や相談を持ちかけられることがよくあります。その人の性格や抱える問題を考えながら応じているつもりですが、これがベストと思える答えはなかなかできません。時に無力感を覚えることもありますが、少しでも役に立てるように考え続けていきたいです。 (T)



編集後記

すっかり1年に1回のペースになっているニュースレターですが、何とか第6号を無事に発行することができました。今回は、風の家活動を手伝ってくれている方にフォーカスを当て、職員の中でも大学院生の時から手伝ってくれていたTさんに登場していただきました。風の家活動は単独ではできません。多くの人の力を借りて成り立っています。これからのご助力をどうぞよろしくお願いいたします。